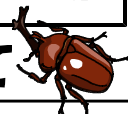




三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより 1 学期終業式号
令和 3 年 7 月 16 日発行
<http://mikasa.maizuru.ed.jp/>

好奇心・探求心を思う存分発揮して



本日、令和 3 年度の 1 学期を終了しました。昨年度は、臨時休校の影響で夏休みが短縮されましたが、今年は明日から 8 月 25 日まで、例年並みの夏休み期間となります。1 学期、保護者の皆様、寮の先生方、地域の皆様から、たくさんの温かいご支援・ご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。おかげさまで、子どもたちは学習に生活に、それぞれ力を伸ばすことができました。本当にありがとうございました。

夏休みを前に、職員で「夏休みの自由研究（1 研究・1 作品）」について話し合いました。私が小学生のときには、すでに自由研究は夏休みの宿題としてありました。長年夏休みの宿題としてあたりまえにあるものだった自由研究。それが、去年はコロナ禍で夏休みが短縮されたことにより、夏休みの宿題から姿を消しました。このことをきっかけに、あらためて自由研究の意義について考えてみようと思ったのです。

職員の協議では、実に様々な視点からの意見が出ました。現在小学生の子どもがいる職員、かつて小学生の保護者だった職員からは、保護者の立場からの切実な意見も出ました。私自身、子どもが小学生の時には、夏休みが始まると「今年は何をさせよう…」と気が重かったことを思い出します。今から思うと、もうこの時点で、「子どものための自由研究」ではなくなっていたんですね。一応、「何がしたい？」と子どもに尋ねはします。でも「う～ん、どうしようかなあ。」とはっきりしないことがほとんど。「それなら〇〇したら？」となり、結局最後まで親が引っ張らないといけない…こんな苦い経験を何度もしてきたなあと思い返しています。でも、よく考えてみると、夏休みの間、毎日毎日飽きもせず庭木に付いたアブラムシを夢中になってお箸で取っては瓶に移していたことがあり、「これのどこがおもしろいの？」とあきれたことを思い出します。こんなに熱中していたのなら、「じゃあ、これを自由研究にしたらおもしろいんじゃない？」と子どもと一緒に楽しめばよかったかもしれません。ですが、このときの私は、昆虫ならまだしもアブラムシ（それもただただ集めているだけ）なんて、自分がイメージできる自由研究の範疇になかったのだと思います。自由研究と言いながら「結論ありき」で、大人の思い描くゴールに誘導していたのでしょう。これまた今から思えば…ですが。

1 学期、学年の掲示板に、子どもたちが、自分が興味を持ったことを朝のスピーチで紹介するために作成したものが貼ってありました。思わずくすっと笑いが出るようなユニークなものや、調べるだけでなく実際に作ってみたというようなものまで、その子どもの個性があふれていて、見るのが楽しみでした。学校では、教師から与えられた課題をするだけでなく、このように自分で探求していくことを大事にしています。自由研究の意義は、まさにここにあると思います。身の周りに目を向け、「なぜ?」「どうして?」「それってホント?」と、自分の中に眠る好奇心の芽を発見すること、「結論ありき」や「出来栄え」ではなく、その好奇心や探求心を楽しみながら発揮することです。興味の対象は子どもによって様々ですから、研究以外にも、絵画や工作、手芸など、とことん自分の「好きなこと」をやってほしいと思います。学年にもよりますが、子どもが自分だけで考え、自分だけの力でやっていくのはやはり難しいと思います。子どもと一緒に楽しむという観点で、お力添えいただくとうれしいです。



【学校で生まれたカタツムリの赤ちゃんを熱心に見る子どもたち】

明日からは、子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。交通事故、水の事故、不審者、熱中症などの危険から命を守ることに、学校でも指導いたしました。ご家庭、寮におかれましても、かけがえのない命を守ることに子どもたちと話し合いご指導いただきますよう、よろしく願いいたします。

校長 小島 みどり
職員 一 同

